

桑原一 さん（1975年卒業） 社会福祉職



元公立学校の先生。35歳を過ぎて介護の資格を取り転職。知的障がい児介護を経て、高齢者介護に携わっています。「いつも最前線の介護」がモットー。

■プロフィール

1957年 東京に生まれる。

35歳を過ぎて、社会福祉士・介護福祉士・介護支援専門員の資格を取る。介護現場を何度か転職後、現在、有料老人ホーム「カーロガーデン八王子」施設長。

家では4人の子どもの父。子育てにはとてもよく関わり、お母さん方の中で黒一点もしばしばだった。

大改造劇的ビフォーアフターに「ピアノが一番えらい家」で出演。趣味は、美術館、歌舞伎座通い。

■最初は右も左も分からなかった

公立学校の先生から、知的障がい児施設に転職。大変なことはなかったのですか？

公立学校時代に、筋ジストロフィーの子どもの担任にもなりましたが、やはり最初は分からないことばかりで、沢山のことを先輩職員から教わりました。障がいの特性やその子どもへの関わり方、コミュニケーションの取り方、日常生活の食事、入浴、トイレなどの具体的な世話などです。苦勞というか気を配った点は、ことばがほとんどない子どもたちでしたので、どのように考え、どのように感じているかを「言葉」という道具で知ることができないことでした。ですから、その子どもの様子やしぐさ、行動で何を考え、感じ、求めているのかを察することでした。

とことん人に向き合うお仕事ですね。

そこに2年3カ月いらっしゃって、高齢者介護施設に移られ現在に至るのですね。

高齢者介護の世界に20年くらいです。同じ施設にずっといたわけではなくて、新規施設を運営管理するポジションで働いていました。時代の流れもあって5年くらい働くと転職し、今の施設で4回目です。ある時期までは過勞死してもおかしくないくらい、ほとんど休むことなく仕事をしなければなりませんでした。

大変でしたね。多忙な中での介護ですが、子どもと高齢者では向き合い方も全然違うと思いますが。

そうですね。子どもと違うのは、「長い人生を歩まれた先輩である」ということです。失礼の無いように関わっていかなければならない。認知症の色々な行動障害を最小限にするために、こちらも多くのストレスがかかって、思わぬ失礼な行動をしてしまうこともある。いつも心しなければなりません。

友人や知人にも認知症の身内がいらっしゃる話が多くて、本当に身近なことに思えます。

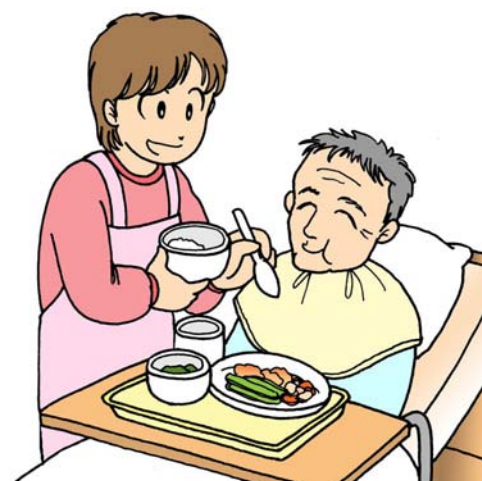
家庭での介護も多いですね。介護保険が導入されて10年経ち、社会に認知された反面、利用する本人家族からは、色々な要望が多くなっているように思います。また、介護のために、ホームヘルパー講習や病院や自治体の認知症勉強会に通ったりして頑張っている家族も多いです。そういう中で報酬をいただいている介護の専門職としての意義を感じています。

■ 認知症の方との向き合い方

介護の専門職の意義とは何でしょう？

専門職の介護は、ただ食事をさせ、お風呂に入れ、トイレで用を済ませるだけでなく、人生の終末をその人らしく暮らすことができるように支えることだと思っています。そのためには、その人をよく知らなければなりません。その人と二人三脚で生活を営んでいく工夫が必要です。

その人が「今何を思い、考えているか」を色々な行動やこだわり、ことば等から推察して、検証・実践をするんです。科学も専門職にはなくてはならないものと思っています。



科学ですか？具体的にどういうことかお話し下さいますか？

認知症をご存知ですか？あの方々はいずれ先ほどの出来事を上手に記憶できません。また身の回りに起こる出来事の情報をも上手に処理することが苦手です。ちょっと汚い話になりますが、トイレの場所が分からない、でも用は足したい・・・そうなる私たちはどうしますか？人目につかないところで用を足そうとしますね。それから、空間移動で瞬時に外国に行ってしまったと思って下さい。見たこともない場所で、言葉が通じない、そんな時に用が足したい。きっと多くの方はウロウロしてトイレを探すことでしょう。

そうですね。とてもよく分かります。認知症の方も同じなのですね。

認知症の方がどうしていいか分からない、ソワソワ、ウロウロと歩きまわる時は、トイレに誘導するのです。上手に用が足せると落ちつきます。ほんの一つの方法ですが。これは行動科学という心理学の考え方を介護の一場面当てはめたに過ぎません。人の行動は、勝手に行動するものではなく、脳や心がこうしたいなと思った時に、体の動きとして表現されるのです。

認知症の方のことをよく知らないと、その人が意味なくウロウロしているように思えてしまいますが、意味のある行動なのですね。

介護で一番厄介なのは、食事を摂らないこともそうですが、汚れや臭いですね。清潔に暮らすことが人にとって大切ですから、トイレのことは気を使います。

あとは、こだわりの行動ですかね。たとえば、同じことを繰り返し話すのは、その事柄を知って欲しい、判って欲しい気持ちになっていることなのです。なのでそれを否定するように話してもうまくいきません。

同じ話を何度もされると、つい「ああ、またか」と否定的な気持ちになりがちですが・・・

そのことに関心を示し、その気持ちに共感することで、その人の気持ちが落ち着いてきます。「銀行に行ってお金をおろしたい」という話をする方がいるとしましょう。道理では認知症で適切に処理できないのだから「お金はご家族が管理しています」ということになるのですが、当の本人は「私のお金なのに」と余計に銀行に行きたくなります。それでは逆効果ですから、「大金を持って歩くのは危険ですから、銀行の人を呼びましょう」という話をします。すぐに納得するわけではありません。「銀行に行きたい」の要求が満たされないので言い続けますが、ある時間を過ぎると収まるのです。



ある時間を過ぎると・・・ですか？

午後3時なのです。その時は時間を本人に確認していただくことがキーポイントです。それは銀行の窓口が3時で閉まるからなのです。でも、これはあと20年もすると使えなくなるかもしれません。現金自動支払機を使い慣れた方が高齢になった時は、「機械でおろす」と言うかもしれません。その時代の生活様式を知ることですね。

認知症の方のお話をしましたが、一般高齢者の方も、気にかかる事は何度もお話されますから、そのことに関心を示したり、一緒に悩むようにすることが大切だと思います。

■最前線の介護でありたい

そうですね。また、そのように理解してくれる人が近くにいることは、誰もが嬉しいことですね。行動科学が頭にあると、相手の行動を客観的に見ることができて、工夫して向き合えるのではと思います。

自分の考えた生活実践の工夫がその人を豊かにして喜ばれた時の快感は、「やった」という言葉では表せない心地良さがあります。ただ、そのように感じて、それを介護に関わる人たちに伝えていくことができなければ、継続した良い介護になりません。専門職としての事例研究も行うことが大切で、自分が行っている介護が常に最前線でありたいと思っています。

それはとてもエネルギーのいることに思えます。道の一步先に行くわけですから。

福祉専門学校で非常勤講師も8年程していました。介護現場の生の声を伝え、マスコミからの3Kでなく、楽しさや喜びを伝えてきました。また、分担執筆で著書を出したり、学会発表も何度か行ってきました。介護や福祉は学問としても歴史が浅いので、今後は実践科学としての研究やその成果を提供する役割を担っていかなければならないと思っています。

多くの役割を感じていらっしゃるんですね。

そういう考え方をするようになったのは、高校時代の恩師、飯村孝夫先生の存在が大きいです。今でもコンサートなどのお誘いを受けお付き合いをさせていただいていますが、先生でありながら声楽家としてオペラ等にも出演されたり演出を手がけられたり、ずっと音楽家という専門職の最前線を歩いて来られたのだと思います。

飯村先生は、淵江高校歌の編曲もされていらっしゃいましたね。ずっと音楽の第一線で多方面に活躍されていて本当に尊敬です。先生を見習われ介護の世界で頑張っている桑原さんもえらいと思います。



介護をしていると人からは「えらいね」といわれますが、私の中では職業と割り切っている気持ちもあります。というのは、兄弟からは「人の親の面倒は見るが自分の親は…」なんてことを言われてきました。ずっと続けて来られたのは、利用者さんから直接いわれる「ありがとう」などの感謝の言葉だと思います。感謝の言葉を伝えてもらえる職業はそう多くないし、またその人の短いかもしれないが人生の一部を二人三脚で歩ませていただけたことの醍醐味は介護・福祉でしか味わえないのではないのでしょうか。

「ありがとう」は言う方も言われる方も癒される魔法の言葉ですね。二人三脚は「ありがとう」が多そうです。

私の介護運営方法として利用者担当制があります。介護職員が担当する利用者と二人三脚で歩くのです。ご自分のことがだんだんできなくなってきた時、担当職員は、元気な頃やホームを利用する前の生活を振り返ります。こういうことをこういう時間にしていたと、お気に入りの場所にお連れして日向ぼっこや散歩、新聞を読んだり花の手入れをしたり。その人ができないとしても、楽しげな顔、にこやかな仕草、穏やかな心が見えた時、やっぱり「この仕事で良かった」と思います。

経済効率が高らかに謳われる今だからこそ、効率の良い介護サービスのみを求めるのではなく、人がする温かな仕事として見直していくことが、今必要なのではないかと感じます。

介護はこれからますます必要になり、向き合い方の質も一層大事になると思います。これからもご活躍を願っています。ありがとうございました

(2011.1.2)